

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (甲信越)	◎	高級レストラン（経営者）	・コロナ禍で中止や延期になっていた旅行や宴会等が、増えてくるのではないかと。
	◎	その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	・今年に入って、葬儀依頼の数字は高止まりしたままで、季節も関係なくなっている。ただし、この状態にあぐらをかかっていると、あつという間に時代に取り残されてしまう。好調な状態を維持するには、どれだけ時代の変化に敏感でいられるかである。
	○	商店街（代表者）	・相次ぐ値上げで客の財布のひもは厳しいものがあるが、客単価の上昇があり、コロナ禍の暗い気分からモチベーションが上がっている。
	○	スーパー（経営者）	・新型コロナウイルス感染症もまだ収束とはいえないが、イベント等も開催予定なので、経済が回るようにしていきたい。近隣の食品店の閉店に伴い、9月からその店の仕事を引き継ぎ、保育園が2件、銀行1件の野菜や食品の納品が増えるため、忙しくなる。
	○	一般レストラン（経営者）	・酷暑も大分和らぐので、人出が多くなると見込んでいる。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	・8月の勢いとまではいかないと思うが、9月以降も皆コロナ疲れの反動で、動きが良くなる。秋以降、年末の忘年会等の引き合いも出始めている。
	○	タクシー運転手	・9月25日から運賃が値上げされる。1～2割ほど売上は増える予想なので、売上は徐々に上がってくる。ただし、乗務員不足なので、どのくらい戻るかは分からない。
	○	遊園地（職員）	・新型コロナウイルス感染症の5類移行により、一層万全な受入体制を整えるとともに、積極的な集客施策の実施や情報発信を行うことで、多くの来園客を期待する。
	○	その他レジャー施設〔ボウリング場〕（経営者）	・企業や団体の予約が6割近く戻ってきたが、更に戻ってくれば、新型コロナウイルス感染症発生前の水準に近くなる。
	□	百貨店（営業担当）	・最低賃金上がることもあり、全体的な賃上げのムードはあるにはあるが、物価高やガソリンを始めとした諸物価の上昇があるため、総体的には余り変わらない。
	□	百貨店（店長）	・地方はインバウンドの影響もなく、新型コロナウイルス感染症による落ち込みからの売上回復も非常に遅い。ここからの3か月に劇的に何かが変わるようなイベント等も全くない。
	□	スーパー（経営者）	・消費は急に崩れることはないと思うが、半年後については疑問がある。
	□	コンビニ（経営者）	・暑い時期が終わり、多少涼しくなると、来客数も減って売上も落ち着くので、前年と変わらない。
	□	コンビニ（店長）	・このところ、売上に良い影響の天候に変わっていたので、大分良かった。2～3か月先の天候は、まだどう変わるか分からないが、かなり残暑が続くようなので、そうなればある程度商材は動いてくる。ただし、今後も値上げが続き、余り購買意欲が高まるようなことがないため、値上げによって購買意欲が下がり、良くなっていくような感じではない。
	□	衣料品専門店（経営者）	・ようやく新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきたのに、このまま暑さが続いて、秋は短く、すぐ冬になりそうである。これ以上悪くなりようもなく、期待できない。
	□	家電量販店（店長）	・年々、来客数が減少傾向にある。
	□	乗用車販売店（経営者）	・新車の供給は更に改善していく見通しだが、新車価格の上昇により足元の受注は伸び悩んでいる。販売はしばらく現状のままで推移する。
	□	自動車備品販売店（従業員）	・来客数は前年並みに戻りつつあるものの、様々な物価上昇の影響もあり、客単価が伸びない状況にある。
	□	スナック（経営者）	・このまま一本調子で回復が続いてほしいが、新型コロナウイルスの新規感染者数がまた増えてきているという話もあるので、どうなるか分からない。自粛ムードのようなことにならないかと思っている。
	□	スナック（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の影響が明け、いろいろな企業や店舗で問題になっている人材不足が、今後の課題である。人材を入れられないことには、客が戻ってきても、なかなか全てを受け入れられないため、売上は伸び悩んでいる。
□	観光型旅館（経営者）	・しばらくは現状と変わらずに旅行するとみている。	

□	旅行代理店（副支店長）	・燃料価格や物価の上昇、業界に携わる人手不足は懸念材料であるが、旅行需要の増加や回復により先行きも好調は維持できる。国内旅行は元より、海外旅行の需要が高まってきている。アフターコロナによるリベンジ旅行と考えられる。
□	通信会社（社員）	・インターネット回線の加入は安定しているが、テレビサービス、特に、CS系は解約の下げ止まりがみえない。新サービスの創出が必要である。
□	観光名所（職員）	・国内や外国人のツアー客が戻りつつある一方で、原材料やガソリン価格の高騰が家計を圧迫している。
□	ゴルフ場（経営者）	・企業における設備投資の伸びが生産性向上をもたらすのであれば、低い失業率、上がる給料、そして企業の成長の3拍子が出そろい、景気の好循環がもたらされる。その結果、金利上昇、インフレ、増税による消費後退が払拭できればと、今後に期待している。
□	ゴルフ場（副支配人）	・10～11月はハイシーズンで来場者が増える。現段階では例年より予約はプラスとなっているが、割引券の配布など客単価が下がる要因もあるので、前年より売上を伸ばすことができるかは不透明である。
□	その他サービス〔クリーニング〕（経営者）	・当地は観光地で少しずつ潤っているが、人手不足が1番の課題である。また、クリーニング業界は更なる原油価格の高騰に非常に苦しんでいる。原油価格に関して政策面で対応してもらえればと願っている。
□	住宅販売会社（経営者）	・現状の経費増加や人手不足などの問題が、短期的に改善される見込みは薄い。
▲	商店街（代表者）	・様々な施策が全て裏目に出ているようで、先行き不透明である。
▲	商店街（代表者）	・2学期が始まったが、今までの8月頃の景気と比べてみると、どうもこれから先は、やや悪くなっていくのではないかと。物価がいろいろと上がっているが、雰囲気的には、給料が少々上がっても物価が上がる方が早過ぎて付いていけない。私たちの商売は余分な物は買ってもらえず、どうしても必要な物だけの購入であり、客が大型店へ行く傾向も段々と強くなっている。
▲	一般小売店〔家電〕（経営者）	・異常気象の影響で、農作物の不作や燃料費等の値上げも収まらず、客の視点が生活費を確保することに向いてしまっているため、物品の購入意欲は出てこない。
▲	百貨店（経理担当）	・猛暑の影響により消費が偏る傾向にあること、依然として値上げが続いていることが重なり、消費は伸び悩む。
▲	スーパー（副店長）	・物価が高い上に、電気代やガソリン代も高騰しており、影響が生活に直結している。その分、食料品等を切り詰める客が多く発生し、景気的にはやや悪くなる。
▲	コンビニ（経営者）	・今は夏休み中であり1か月間も猛暑が続いたので、飲物等の売上は上がっている。これから先、暑さが落ち着いてくると、この物価高により財布のひもも固くなってくる。
▲	コンビニ（経営者）	・観光シーズンが終了するため、やや悪くなる。
▲	コンビニ（経営者）	・最低賃金が上がって、経営者側としては支出が増えるため、売上は変わらずとも景気は下がるのではないかと。
▲	一般レストラン（経営者）	・ALPS処理水の海洋放出の関係で、中国等の諸外国との輸出入の動向が、経済の動きに大きな影響を与える。国内需要と生産者との関係は複雑になってしまうのではないかと。
▲	都市型ホテル（スタッフ）	・自粛からの解放のせいも、急激に人の動きがあり過ぎる印象を受けている。今まで我慢していたものを、ここ数か月で使用するかのごとく、来客数や客単価が上がっている。更なるエネルギーコストの上昇や天候不順による原材料の価格高騰、また、人手不足による受注困難がこの先予測され、それに合わせて落ち込むようにみられる。
▲	都市型ホテル（スタッフ）	・繁忙期が過ぎ、各種大会等もほとんど終了するため、間違いなく、8月ほどの稼働率は見込めない。
▲	通信会社（社員）	・燃料費や生活費高騰等、景気上昇の兆しがみえない。
▲	設計事務所（職員）	・仕事量は減ってきて、実施設計までの期間が空くようになっている。
×	コンビニ（エリア担当）	・人件費、エネルギー価格の高騰の影響で廃業が多くなる。
×	衣料品専門店（経営者）	・気温の暑い日が続き過ぎている。物価高もかなり厳しい。

		その他専門店〔酒〕（店長）	・諸物価が上がり、コストプッシュインフレのような状況である。全般的に酒の動きを見ていると、物を選ぶことに慎重になってくるのではないかという動きを感じる。商材に人件費等の価格転嫁ができて好循環となればよいが、客は賢く買物をするのではないかとみており、景気も悪くなると懸念している。
		スナック（経営者）	・これからまた物価も上がるが、それを客にどう転嫁していいのかわからず、本当に困っている。何か良い方法があれば教えてほしい。
企業 動向 関連 (甲信越)	◎	—	—
	○	食料品製造業（営業統括）	・今年は天候に恵まれたため、新酒の出来が良く、例年以上の実績が期待される。また、インバウンド対策として工場見学ツアーも業界で検討されており、多くの来場者が期待できる。
	○	金属製品製造業（総務担当）	・半導体需要が回復する。
	○	電気機械器具製造業（経営者）	・イベント関係の受注が増えている。受注できるかは分からないが、見積案件も増えている。
	○	金融業（経営企画担当）	・中国からの観光客が、新型コロナウイルス感染症発生前の水準を超えるといわれている。現実になれば、観光産業の明らかな景気回復につながる。
	□	窯業・土石製品製造業（経営者）	・季節商材の見込みはあるが、ワークショップの動きが低迷しているため、先行きは不透明である。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	・エネルギー価格を含む物価高などで、耐久消費財の買換えサイクルの長期化や買い控えの継続が見込まれる。
	□	電気機械器具製造業（従業員）	・生産量は確保できているが、部品や部材の値上がりがあった場合には左右される。
	□	その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・9月から各種催事が始まるため、期待している。
	□	建設業（経営者）	・仕入れと売上価格のバランスが取れているので、景気は徐々に良くなる。
	□	金融業（調査担当）	・製造業は電子部品を中心に当面はやや弱さが残るとみている。非製造業は観光関連で中国のインバウンド増加が期待されるものの、原子力発電所の処理水問題の影響等が懸念される。
	□	新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・依然として、紙や燃料を始めとした価格高騰が続き、経費の増加が見込まれる。また、紙代高騰による折込広告出稿枚数の減少が出てくることも予想される。
	▲	食料品製造業（総務担当）	・競合メーカーが積極的に販売促進を掛けているため、やや悪くなる。
	×	食料品製造業（製造担当）	・電気代は3年前の3倍に達しているが、現在の契約を解約しても違約金の関係でトータルでは変わらず、自分たちではどうしようもない。その上、ガソリン価格もいまだに高止まりしており、商材原価を改訂し値上げをしても、追いつかない。利益を出すのは厳しい。
	×	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・毎月の資金繰りが大変である。
雇用 関連 (甲信越)	◎	—	—
	○	求人情報製作会社（総務担当）	・地方だからなのか、景気が良くなっている実感がなかなか湧かない。当社の売上状況から考えれば、今後は良くなるとしか思えない。
	□	人材派遣会社（営業担当）	・買物客が減少し、相変わらず財布のひもは固い。お金があるところとの差はもっと開くのではないか。
	□	職業安定所（職員）	・秋の行楽シーズンを控えた観光関連や人手不足感が強い医療、福祉分野では求人需要が続くとみられるものの、物価高騰による雇用への影響も懸念される。
	□	職業安定所（職員）	・円安、原材料の価格高騰、人件費の上昇等、企業経営を阻害する要因が緩和、解消されるとは考えにくい。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	・円安や物価高の影響が収まらず、将来を見据えた企業投資に強さがなく、現状維持が続く。
	▲	職業安定所（職員）	・中小企業においては、円安、物価上昇等のダメージやゼロゼロ融資返済の状況が懸念される。
	×	—	—